

## 当院におけるスポーツ選手への半月板単独損傷に対する 半月板縫合術の治療成績

○田中 聡一 (たなか としかず)(MD), 松下 雄彦 (PhD), 黒田 良祐 (PhD),  
荒木 大輔 (PhD), 松本 知之 (PhD), 黒坂 昌弘 (PhD)

神戸大学大学院 整形外科

### 【目的】

当院におけるスポーツ選手の膝半月板単独損傷に対する半月板縫合術の治療成績を調査し検討すること。

### 【対象と方法】

当院において半月板単独損傷にて半月板縫合術を施行した36例36膝を対象とした。男性27膝、女性9膝、平均年齢17.7歳、平均経過観察期間19.8ヶ月、術前Tegner Activity Scaleは平均8.6であった。

### 【結果】

内側半月板(MM)損傷が14膝、外側半月板(LM)損傷が22膝で、受傷から手術までの待機期間は平均4.3ヶ月であった。縫合方法はinside-out法26膝、all-inside法5膝、併用例5膝であった。術後Tegner Activity Scaleは平均8.4であった。Lysholm scoreは術前60.2から術後96.5と有意に改善した。術後34例(94.4%)が受傷前のスポーツに復帰し、30例(83.3%)が受傷前のスポーツレベルに復帰した。再断裂を7膝(19.4%)に認め、術後平均11.2ヶ月で再手術を要した。再断裂はMM4膝(28.6%)、LM3膝(13.6%)とMM縫合例で再断裂率が高い傾向にあった。

### 【考察】

術後の臨床スコアの改善とスポーツへの復帰率が良好であることから、スポーツ選手の半月板単独損傷に対する半月板縫合術は有効な治療法と考えられた。一方で、再断裂例も少なくなく慎重な経過観察が必要であると思われた。